

【群舞部 講評】

■どの作品もよく練習されていました。完成度の高い作品ほど、既視感を覚えました。芸術には新しい価値の創造という役割があると思います。是非今の時代に訴えるかけがえのない作品創りをめざして下さい。

■群舞部も回を重ねてきて、いわゆる集団演技+αから独特の表現方法が現れてきたように思います。たとえば、ストーリー性とか、人間と環境とか、集団そのものの個性などなど。まだ、試みの段階ともいえますが、これから「テーマ」、「ドラマ」の表現手段として一層の創造的発展が期待されます。

■見ごたえのある作品ばかりでした。群の迫力、個々の輝きが印象に残る力作ぞろいでした。欲を言えば、群舞作品にしかできない何か魅力のようなものが秘められていると申し分ないものになると思う。その”何か”はグループが決心するこだわりでしょうか…。なかなか難しいですね…。

■この部門は、技術的にも良く鍛錬されている方が多かった様に思えます。作品の内容を理解し、表現する。全体的にすばらしい作品が多かったように思います。今後の皆様の成長をこれからも楽しみにしています。

■群舞の漢字のとおり”群””舞”の双方を兼ね備えることが求められる。近年のマスゲーム・パフォーマンスに見られる連帯感、一体性に縛られることなく、舞踊の醍醐味を追求して欲しい。

■この部門はジュニアより2分長いので、作品展開が重要になり、長く感じられる作品もあった。レベルは全体的に高いので、どれだけ細部まで練り込まれているかが点数の差になった。もう一度観たいと思う魅力的な作品が多かった。名曲が一作品の中に何種類も出てくるのはどうか…とも思った。

■構成が流動的で印象的な作品が多くあった。ソロでも見られるような動きに囚われずに作品の為の振付がもう少しあると…と思う作品もあった。

■とても上手なダンサーが多く、大変楽しく拝見させて頂きました。何を表現しているのかを大切に、もう一つテーマに沿った振付、衣装、音楽ということにこだわってほしいと思いました。